



モダン寺新聞
～今月の記事～

一口法話「まいらせ心」
連続掲載
第六回 「仏教ここが知りたい」
神戸別院行事レポート
別院掲示板

4 P 3 P 2 P 1 P

一口法話

「まいらせ心」

年の初めに思うこと。去年は、こんな事をしてあげた。あんな事をしてあげた。この人にも、あの人にも。

蓮如上人のお言葉に「仏法にはまいらせ心わろし。これを御心に叶わんと思う心なり。仏法の上はなにごとも報謝と存すべきなり。」というお言葉があります。「まいらせ心」というのは、私がしてやつた、したんだ、してあげたという思いのことです。そういう思い上がつた心をもつてすると、自分の思いが叶わないことがある。全てさせて戴いているという、報謝行でなければならないとおっしゃるのです。私が日々お参りをし、お経をお勤めしているのに、また、法事も忘れないで勤め、日々もお寺さんにお参りして貰っているのに家の中が思うようにならないとか、商売がうまくいかないと言うのは思い違いをしていますよ。そういう代償を求めるようなものではなくて、ただ救われていくことの尊さを、ご報謝としての行為として励まなければなりませんよと言つておられるのです。「まいらせ心わろし。……仏法の上はなにごとも報謝と存すべきなり。」のお言葉をお念仏をいただく者として、生活の上全てに当てはめて考えてみましよう。例えば、人に親切にしても、してあげた、してやつた、したんだという「まいらせ心」が先行し、礼が聞けなかつたり、見返りがなかつたりしたら、腹を立てたりすることがあります。そうではなくて、させていただいているのだという報謝の心でなければいけません。人にしてあげたことばかりを自覚していくのではなくて、それよりも、人にして貰つたことを忘れず、そのことをもっと大切にいただいていかねばなりません。他力とは、如来様にしてもらうことばかりなのです。

今年は、してもらうことを喜んでいこう。してもらうことを大切にしていこう。それが他力の精神なのだから。

揖龍西組　淨蓮寺　竹内　俊之師

第六回

「仏教 ここが知りたい」

「神戸別院のお内陣」

(前号に続き)

戸帳

ちょ



戸帳とは、宮殿（くうでん）や厨子（すし）に吊り下げて、尊像の正面や、側面を覆う戸張り（とばり）のことです。他の煌（きらびやかな仏具類に比べて、地味な印象を受けますが、ご家庭のお仏壇にもしばしば設えられています。モダン寺の戸帳は、金糸で施されたその文様に特徴があります。

(戸帳の刺繡)

「アショカ王」

アショカ王は、当時インド全土を支配下に治めたマウリヤ王国という国の王子として生まれました。自ら先頭に立つて領地拡大のための戦争を続け、遂にはインド最初の統一王朝「マウリヤ王朝」を築き上げました。しかし、実兄とも刃を交える程の暴虐な王様でした。そんなある日の比丘（出家僧）に出会い、自分の起こしてきた戦争によって多くの人々を殺めてきたこと、その悪業を悔い改め深く仏教に帰依するようになりました。

この文様は、紀元前三世紀、「アショカ王」が、釈尊ご生誕の地、ルンビニへ参拝したことを記念して建立された大石柱に刻まれている碑文をデザインしたもの。ではここで、少し話は逸

れますが、「アショカ王」というインドの王様を紹介します。そもそも仏教は、紀元前五世紀に釈尊（仏陀）がインドの地で少數の弟子に教えを説いたのが始まりですが、その時点では、後に世界宗教となる素地はほとんどなく、やがて消えて行く程度の少数派の宗教だったといわれます。しかし、釈尊の入滅から一〇〇年後、アショカ王の出現によって時代の流れが大きく変わります。

福祉国家を築こうと尽力しました。仏教僧を大使として各国に送り仏教の伝道を行ない、また、インド国内においては各地に寺院と仏塔を建立しました。（これらの仏塔はアシャカンピラといわれ、インド仏教の象徴となっています。丸い塔の上にライオンや牛が乗っているもので、二〇～三〇メートルほどあり、主に釈尊の遺跡に建てられました。その数八万四千といわれます。）

また、アショカ王はそれまで口伝でのみ受け継がれてきた釈尊の教えを初めて集大成し、仏典の編集事業を行ないました。

このように、アショカ王は仏法を人々の心に届けることに情熱を持りました。自ら先頭に立つて領地拡大のための戦争を続け、遂には印度最初の統一王朝「マウリヤ王朝」を築き上げました。しかし、その過程はまさに血で血を洗うものでした。その頃アショカ王は、「残忍アショーカ」の異名で呼ばれ、実兄とも刃を交える程の暴虐な王様でした。そんなある日の比丘（出家僧）に出会い、自分の起こしてきた戦争によって多くの人々を殺めてきたこと、その悪業を悔い改め深く仏教に帰依するようになりました。

それからというもの、アショカ王は戦争をやめ、仏教を厚く保護し、仏法によつて国を治める平和

（つづく）

ルンビニーはインドと国境を接するネパール西南部のタラーアイ盆地に位置します。ここには釈尊の生母マーヤー夫人をまつる祠堂が建てられ、祠堂の後には一八九六年に発掘されたアショカ王柱が建っています。これはイギリス人考古学者フューラー博士によって発見されました。そこには古大インド言語・グラフミー文字で五行にわたり碑文が記されていました。解読の結果、その碑文には次のように書かれていることがわかったのです。

「アショカ王は、即位灌頂の第二十年、自らここに来り、親しく参拝した。ここで、ブッダリシャカムニが生誕せられたからである。（中略）ルンビニー村は租税を免除せられ、また生涯の八分の一のみを支払うものとする」

この発見は、注目を集めるものでした。何故ならインドの風土・文化の為か、インドには「歴史書」というものが存在していないため、この王柱に記された内容だけが、ブッダが実在の人物であることを証明する、ほとんど唯一の資料として当時の出来事を伝えているからです。また、この発見により、この王柱に記された内容だけが、

（つづく）

□◇◇神戸別院行事レポート◇◇□

「門信徒の集い」開催

平成十四年、秋季彼岸の中日（九月二十三日）の午前十時より恒例となりました「第八回門信徒の集い」を開催しました。

今回は『節談説教（ふしだんせつきょう）』をテーマに、説教の歴史を参拝に来られた皆さんと勉強（どうぱ）流説教を実演していました。

した後に、竹内英昭師より東保（とうば）流説教を実演していました。節談説教とは、江戸時代に大流行したフシのついたお説教です。これは現在でいうところの落語や講談・浪曲などの源流です。しかし明治頃より、時代や風習の流れの中で衰退してしまったこのスタイルです。現在では聞くことが極めて稀になってしまったこの『節談説教』は私たちにとつて非常に味わい深いものでした。今後も彼岸中日には「門信徒の集い」を開催し、皆さんと一緒に色々なことを学ばせていました。どうぞ軽に参加ください。



別院報恩講

十一月二十七日（水）から二十九日（金）、三日間にわたって「神戸別院報恩講」が勤まりました。（写真）



生下組明光寺の赤松弘淳（こうじゅん）師をむかえ、三日間で八座の

ご法話をいただきました。これからも沢山のご参拝・ご聴聞をお待ちします。

要の後に一階ホールにて「チャリティバザー」を開催しました（表紙参照）。このバザーに使用された商品は神戸市内のお寺さんを中心、近所の方やご門徒さん、職員の実家などから集められました。中には宗派を超えて協力してくれたお寺さんもあり、品数もかなり集まつたかのように思えましたが、予想以上の参加者に、終わってみれば「あっ」と言う間にほぼ品切れとなってしまいました。

別院仏教壮年会有志のお手伝いもあって、大成功だったようを感じます。また、昼食・夕食時には佛教婦人会の皆様にお斎（とき）を準備していただき、参拝に来られた大勢の皆様と大変おいしくご馳走になりました。（写真）

正忌報恩講（ごしきょうきほうおんこう）と称しておつとまりになります。したがって、この本願寺での「御正忌報恩講」にお参りするため、多くの別院・教堂・一般のお寺やご門徒の家庭では、年を越す前（十一月から十二月にかけて）に「報恩講」をおつとめすることあります。今までもなく、聖人のご恩を偲ぶことはそのまま阿弥陀如来のお慈悲を喜び、お札を申すことありますので、お念佛に満ちあふれた仏事なのです。この度のご講師には滋賀教区蒲



祝杯を交わして

十二月三十一日、午後五時より除夜会、翌日一月一日は午前七時より元旦会が別院本堂にて勤まりました。年の最後、そして最初の法要に多くの御同行のお参りをいたしました。

元旦会においては参拝に来られた皆さんと正信偈をお勤めした後、総会所において職員との交歓会が行われました。井上輪番より「淨土真宗において、『新年』はそれほど重要な事ではありませんが、この日に気持ちを新たにし、本年も沢山のご聴聞をしてほしいものです。」と挨拶がありました。一同は龍谷盆につがれた年酒で乾杯し、年頭の挨拶を交わしました。

別院掲示板

新年のあいさつ

本願寺神戸別院
輪番 井上 博雄



新年明けましておめでとうございます。ご家族お揃いでお慶びのことと拝察いたします。お正月も過ぎ、もう既に平常のお仕事に追われる忙しい日々をお過ごしのことと思ひます。

人間、歳を経るに従い、月日の経つのが早く感じられるようになります。忙しさの中でもふと参拝をお待ちしております。

本年も是非、この尊いご縁に遇つていただきたいのです。

神戸別院職員一同、皆様方のご参拝をお待ちしております。

は、このご縁づくりであります。

合掌

●歎異抄（現代語版）
●一念多念証文（現代語版）
●御文章 ひらがな版
●聖典勤行集（大・小）
●浄土三部經
●日常勤行聖典
●御同朋の願い
●暮らしの中の淨土真宗
●正信偈を読む
●淨土の慈悲
●新繪本 お釈迦さま
●新絵本 親鸞さま
●真宗における儀礼
●親鸞聖人に学ぶ
●仏事のイロハ
●まことのよろこび
●マンガ仏事入門
●やさしい真宗講座
●朗誦法話集

などを取り扱っておりますので、お参りの際に職員にお尋ねください。

モダン寺新聞

出離の強縁しらざりき
本師源空いまさずは
このたびむなしくすぎなまし
鸞聖人のご和讃
曠劫他生のあひだにも

（出離の強縁＝迷いの世界を脱するための強い因縁。阿弥陀仏の本願力のこと）を思い出しました。

ああ、そうありました。

既に私は、阿弥陀如来さまの御本願のはたらきの中に、生かされている私でありましたと、知られ、唯お念佛申すばかりであります。

お念佛に遇うことがなかつたならば、空しい時まま、忙しさの中に埋没してしまう自分になつていただと思います。

お念佛は、当たり前ではなかつたと氣づかされる、転じさせられる尊いみ教えであります。ひとりでも多くの方に、このご縁に遇つていただきたいと願つております。

本願寺神戸別院での法要・行事

は、このご縁づくりであります。

本年も是非、この尊いご縁に遇つていただきたいのです。

神戸別院職員一同、皆様方のご参拝をお待ちしております。

は、このご縁づくりであります。

合掌

書籍の取扱いを行っております。
主な取扱い書籍は次の通りです。

●顕淨土真実教行証文類

（現代語版）

○歎異抄（現代語版）
●一念多念証文（現代語版）

●御文章 ひらがな版
●聖典勤行集（大・小）
●浄土三部經
●日常勤行聖典
●御同朋の願い
●暮らしの中の淨土真宗
●正信偈を読む
●淨土の慈悲
●新繪本 お釈迦さま
●新絵本 親鸞さま
●真宗における儀礼
●親鸞聖人に学ぶ
●仏事のイロハ
●まことのよろこび
●マンガ仏事入門
●やさしい真宗講座
●朗誦法話集

ご結婚おめでとう

昨年秋より別院一階事務所にて書籍の取扱いを行っております。
主な取扱い書籍は次の通りです。

十月二十七日（日）

新郎 山崎将吾さん
新婦 門川真智さん

十一月二日（土）

新郎 香川吉水さん
新婦 熊谷祐子さん

十二月二十一日（土）

新郎 中盛清人さん
新婦 杉本法湖さん

新郎 熊谷祐子さん
新婦 門川真智さん

などを取り扱っておりますので、お参りの際に職員にお尋ねください。

モダン寺新聞

出離の強縁しらざりき
本師源空いまさずは
このたびむなしくすぎなまし
鸞聖人のご和讃
曠劫他生のあひだにも

仏前結婚式のお申し込み・お問い合わせは
本願寺神戸別院（モダン寺）
TEL 078-341-5949
までお気軽にどうぞ。